



裁判官

にインタビュー～

裁判所は手続をする方以外は入ることができないとか、近寄りがたいと感じている方はいらっしゃいませんか？

そのような方のために裁判所のことをもっと知っていただき、より身近で利用しやすい存在に感じていただくよう様々な広報活動を行っています。

今回は、憲法週間を契機に、任官したばかりの裁判官へのインタビューを記事にしましたので、どうぞご覧ください。これをきっかけに裁判所に興味を持っていただけたら幸いです。

この他にも、「長崎地方・家庭裁判所ってどんなところ？」のチラシも是非ご覧ください。

Q1 現在担当している仕事の内容は？

私は、長崎地方裁判所の刑事部に所属しており、主に刑事事件を担当しています。裁判官の仕事というと、法廷で、黒い服（「法服」と言います。）を着て、裁判をしているというイメージがあるかもしれませんが、その他にも、裁判の進行について弁護士や検察官と打合せを行ったり、裁判の進行や判決について裁判体の中で話し合ったり、判決文を書いたり、といった法廷の外で行う仕事も沢山あります。

Q2 職場の雰囲気は？

長崎地方裁判所刑事部では、裁判官の他にも、裁判の記録の管理や、期日で起きたことを記録にする調書の作成等を行う書記官や書記官をサポートする事務官、専門等の内容を記録する速記官等様々な職種の人が働いています。専門分野、年齢、経験等が異なる人達が、より良い裁判ができるように、協力して知恵を出し合っています。周りの人の得意分野を尊敬し、自分の得意分野を生かして仕事ができる、とても楽しい職場だと思います。

Q3 裁判官の仕事で、やりがいを感じることは？

仕事をする中で、難しい問題にぶつかったり、どのような判断をするべきか悩むことがあります。過去の裁判例を調べたり、色々な本を読んで勉強したり周囲の裁判官等に相談したりする中で、自分なりの答えが出せたときにやりがいを感じます。私は、まだ裁判官1年目なので、これからも沢山のことを勉強して、経験を積んで裁判官として成長していきたいなと思っています。

Q4 裁判官を志したきっかけは？

子どもの頃は、本を読んだり、絵を描いたりするのが好きでした。国語や社会等の文系の科目が好きだったことと、社会がどのように動いているのかを知りたいと思ったことから、大学は法学部に進学しました。法学部に入り、法律の勉強が面白いと感じたので、法律の勉強を続けて、司法試験を受験することにしました。当時は、弁護士が主人公のドラマがはやっていてこともあり、弁護士になりたいなと考えていました。どんな仕事をしているのかイメージが持てなかったため、裁判官になることはあまり考えていませんでした。しかし、法科大学院や司法修習の期間に、裁判官にお会いして、優しくユーモアのある人柄や、当事者のためにより良い事件の解決ができるよう一生懸命仕事をしている姿に魅力を感じ、裁判官になりたいと思いました。

私が、実物の裁判官に会ったことをきっかけに「裁判官になりたいな」と思ったように、実際に仕事をしている人の話を聞いてみるのが、気付いていなかった魅力に気付くきっかけになるかもしれません。みなさんも、是非、色々な人に会って色々なことを感じてください。